第２７９０地区 ROTARY CLUB OF KASHIWA-NISHI

柏西ロータリークラブ

創立：１９７５年１１月　７日
承認：１９７５年１１月２４日

会報 第 2025 号（10 月 5 日発行）

四つのテスト
1. 真実かどうか？
2. みんなに公平か？
3. 好意と友情を深めるか？
4. みんなのためになるかどうか？

インスピレーションになろう

第２０５８回通常例会 (2018.9.28)

2018-2019 年度　会長：髙田　住男　幹事：齋藤　敏文

■柏西ロータリークラブ URL.http://kashiwa-nishi-rc.com/　■第 2790 地区ロータリークラブ URL.http://www.rid2790.p/2018/

２０５８回通常例会

1. 点　鐘	髙田住男	会長
1. 会長挨拶	髙田住男	会長
1. 幹事報告	齋藤敏文	幹事
1. 卓　話	高橋史成	様
1. 点　鐘	髙田住男	会長

会長挨拶

会長　髙田　住男

皆さん、「ロータリーの友」をご覧頂いていることと思います。９月号を読まれましたか？友の左開きの最初の特集ページには「厚生労働省による『国民生活基盤調査（２０１２年）』で、日本の子供の相対的貧困率が１６．３％と過去最悪になったと判明。『６人に１人が貧困』と報じられ、国内の子供の貧困率が浮き彫りになりました。」という記事がありました。そして、右開きの特集ページには、「子供の貧困は世帯の貧困、世帯の貧困は地域の貧困」という表題のもと、包括的こども食堂を経営する NPO 法人の山屋理事長の第２５２０地区の第２分区の IM 講演会の要旨が載っていました。

会員の皆様の身近に、子供が貧困で苦しんでいる。ないし、食事が満足に食べられない子供が居るということを見たことがありますか？知っていますか？身体障害者として生れてきた方の面倒を見る社会福祉法人は知っていますが、貧困な子供については、身近にそのような人を見たことはありません。小職の従業員にも聞きましたが、思い当たらないという返事でした。友の記事では、全国で２，２８６カ所（２０１８年４月３日現在）の子供食堂があるようですが、そのうち千葉県では６２カ所ということです。私の身近には、全くその影はありませんので、ただただビックリしています。

「ロータリーとして関われることとは」のいうことについて、第２７５０地区では２０１７年６月に「貧困の連鎖対策研究会」発足、今年の７月までに１０回の会合を開いているそうです。最初は「そんな子供はいないだろう。」という気持ちで集まったそうです。結びに「ロータリアンが一斉に、子供が輝ける町つくりを目指すことができれば、『貧困の連鎖』を絶つことに一石を投じられると思います。』と結んでいます。、

近隣では柏南ロータリーがこれに取り組んでいるようです。本日は子供の貧困について柏市社会福祉協議会の地域福祉課の高橋課長の卓話を頂くことになっています。柏市の状況の説明を受け、今後どうするか皆さんとともに検討していきたいと思います。

卓話「柏市における子どもたちの生活課題、貧困問題」　柏市社会福祉協議会・地域福祉課課長　高橋　史成　様

改めましてこんにちは。ただいまご紹介頂きました柏市社会福祉協議会の高橋でございます。本日はこのような貴重な機会を頂きまして大変ありがとうございます。また私共、社会福祉協議会は地域づくりのご相談から地域づくりまでを市民のボランティア多くの力を頂きながら、各種事業をやっておりまして、本日の髙田会長様を始め、ロータリークラブの皆様にも日頃から大変なご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

本日のお題として頂きました子供たちの生活課題と貧困問題ということでございますが、皆様も既にご承知の

通り、ここ数年、子供に関わる特に貧困問題に関してだいぶクローズアップされている時代にございます。本日は子供達が今どのような状況に置かれているか。特に貧困いう視点に限ってお話を少しさせて頂きたいと思っております。本日お手元にはいくつか資料ございますが、主にはこの A3 版の中にございます、パワーポイントの資料を用いて少しご説明をさせて頂きたいと思います

本日は大きく 3 点お話させて頂きたいと思います。一つ目は子供がどういう状況にあるのか。二つ目が貧困。どういった原因で起きているのか。そしてそれは子どもにどういう影響をもたらしているか。そして最後に、私たちにできること。この 3 点についてふれて参りたいと思います。

まず取り巻く状況でございます。ご覧頂きたいのは、こちら厚生労働省の資料でございますが、出生数が出ているものでございます。明治 32 年からずっとありますが、直近はこちらにあります、98 万人の出生であると。出生数は 100 万を切っているという事で、お子さんは確実に減っているという状態にございます。続いてこちらは、児童相談所での児童虐待相談対応件数でございます。これは全国版でございまして、直近の数字、28 年度になりますが、児童相談のうち、児童虐待相談は 122,578 件になっております。これは児童相談所で受けてる件数ですので、市町村で受けてる数字を拾いますと、相当数の数になるわけですが、着目頂きたいのは、たった 10 年で 3 倍ぐらいまで広がってる、ということでございます。お子さんが減っているはずなのに、虐待件数は伸びている、という実態がございます。これは虐待が増えたという見方もあるんですが、周りの大人の目が、虐待の早期発見につながっている表れでないか、という専門家もございます。

それから続いて本日ので主題であります、貧困率に関わるものですね。こちらも厚生労働省の資料でございます。先程会長さんからもありました、その数値がございます。で、この数字がピークだったのが、この 24 年ぐらいが、非常に問題視されているわけなんですが、若干下がったと言われておりますけども、これでもなお日本には約 280 万人の貧困状態にあるお子さんがいる、と言われております。この貧困率っていうのは、貧困線を割ってるかどうかで見るわけなんですが、いわゆる収入の中から、税金と社会保険料を除いた金額。これがこれの内の国民の中央値が、約 240 万円台だと思うんですが、それの半額以下で暮らしているご家庭と、いうような状態ですので、120 万円ということになるかと思います。その数が約 280 万人いると。なおかつ、こちらの 50.8%というところなんですが、ひとり親家庭の貧困率が特に高い。二人に一人は貧困状態にあるということで、特に母子家庭の貧困状態が著しいという風に言われております。母子家庭の方は、色々数字あるんですが 60%以上は確実に貧困状況にあると言われております。続いてこちら、生活意識調査の結果でございますが、やはりこちらもご覧いただいのは母子世帯の部分なんですけれども、ピンクの点々で打っている所が、生活が大変苦しい、またはやや苦しいと答えている割合になります。これをざっと見ただけでも、80%以上の方が、母子家庭では非常に苦しいというようなことを訴えております。

続いて柏市のデータを、少しご覧頂きたいと思うんですけれども。柏市のデータなんですが、これは少し前になりますけれども、平成 27 年現在の数字でございます。上の表は就学援助受給者数ってあるんですけれども、おおよそこの受給率が貧困率と近いという風に言われております。その数が柏ですと 3,000 人と、いう状況でございます。率にすると 10%弱なんですけれど、全国平均からすれば、低い数値が出ているわけなんですが、10 人に 1 人のお子さんは、貧困状況である、ということがこちらから言えるかと思います。下の方は、就学援助認定者数ということで、上の表をさらにグラフ化したものでございます。およそ 3,000 人のお子さんたちが、そのような状況にあるという事は間違いなく言えるというのがこちらの数字でございます。さらには、柏市における児童虐待件数ですけれども、28 年度に 217 件の数字が出ております。児童虐待は特にメディアで、大変痛ましい事件として報道されることが、いくつもあるかと思います。

柏でも少なからずそのような状況がございまして、つい最近、この家庭児童相談に関わる専門職の方と少し意見交換をさせていただいたんですけど、今のお母さん方ってどうなんでしょうか、ということでお聞きますしましたが、やはりひとり親家庭で、ご相談に至る方が多いと、特に母子家庭で、お母さんが精神的に参ってしまっていると、いうご家庭をよく見るというお話がありました。児童虐待については誰か、第三者からの通告によって届くようなイメージがメディア等で強くあるんですが、最近のお母さんの健康で言うと、お母さん自らお電話なさってくるケースも増えているそうです。具体的には子供を叩いてしまったと。子供をどうしても自分は受け入れることができない。一緒に暮らしたくない、というような痛切な声が届くそうです。ただ専門医の方がじっくりお母さんの話を聞いてみると、決して本心でそれを言ってるわけではなくて、本当は子供を愛していると、いうことがお話を聞いていくと、紐解いて出てくる、ということもお聞きしております。ただそれだけお子さんが嫌、というほど精神的に追い詰められている、とい

うことも言えるんではないかと思います。それから児童扶養手当、これはひとり親家庭に支給される手当でございます。所得による制限等ございますが、28 年度は 2,700 件程度、受けていらっしゃるというような状況でございます。

このような現状の中で、この貧困が一体どうやって現れているのか、ということについて少し触れたいと思います。原因は様々言われております。学者さんによっても多少違いますが、大きく共通しているのはこの大きく三つでございます。1 つはワーキングプア。そしてひとり親世帯の増加。そして所得の再分配の課題です。

まずワーキングプアについては、非正規雇用という実態でございます。特に離婚をし、母子家庭になりました、というお母さんが、生計を立てるためにお仕事をします、と言った場合に、お子さんが急に熱を出した、と言ったような形でお仕事を選ぼうとすると、どうしても正規職員での働くフルタイムで働くのは、難しいという状況になってしまいます。よってワーキングプアというな状態になってしまう、というのが一点ございます。ある調査によりますと、同じ母子家庭でも、働いていないで、生活保護等で生計を立てている母子家庭があったとして、もう一人働いてるお母さん、母子家庭がいたとすると、貧困状態がほぼ同じだというだという風に言われております。なので働いてもなお、貧困から脱しえない、というような状況がございます。さらにはひとり親世帯が増えているということで、これは実際、残念なことに離婚率、離婚する家庭が増えているというのが、統計上出ております。当然共働きという事が成り立ちませんので、世帯としての収入が下がる、という状況です。さらには所得の再分配でございます。いわゆる福祉の分野で、どういったところに重点を置くか、ということによるものなんですけども、どうしてもお子さんへの支援に十分な手が届いてないんではないか、ということが言われております。大きくはこの 3 点で貧困が起きてるんではないか、ということが現在言われてるところでございます。

更に、見えにくい貧困、ということなんですけども、一見子供たちの元気な様子を見ると、そのような状況にいるお子さんというのがわからない、見えづらい、という現状がございます。ただ、そのお子さん達がどういう状況に置かれているか、ということを少しお話をさせて頂きます。まず経済・教育に関わることなんですけれども、具体的には新しい服や靴を買えない経験を持っている。または病院に行きたい時に行けない。必要な食料品を買えなかったことがある。塾や習い事に行けない。これは柏市の調査でも出ております。ただし、不思議なことなんですが、スマートフォンを所持しているお子さんは貧困家庭の方が高い、という数字が出ています。これはお母さん方なりが働きに出てるので、連絡を取る唯一の手段である、ということでスマートフォン、いわゆる携帯電話を持つ率が上がると、いうような状況が全国的にもあるそうです。それからつながり・体験、一人で過ごす時間がやはり、お母さんが働いてますので、多いと。さらには家族旅行といったものが、どうしてもできないということで、経験や体験がやはり周りの子と比べると少ない、という状況になります。当然ながらひとりで過ごす時間が多いということは、人との繋がる機会を失っていると、いうようなことも実態でございます。

さらに、大人になるために非常に大事だと言われているのが、自己肯定感と言われるものなんですけども。自分を信じる力と言いますか、自らの存在価値をなかなか認められない。それから将来への希望を持つことができない。更には自信を持つ、ということも経験上できない。ということが実態として出ております。これら三つの影響が、結果として将来お子さんが大人になった時に、やはりその連鎖から抜けられずに、貧困が代々続いてしまう、ということが実態として起きていると。で、このことについて、多くの専門家は子供の貧困の放置をそのままにしてしまうと、いずれ社会的損失として、約 43 兆円の損失が出ると、いう風に日本財団は試算していると。これはやはり個々の問題ではなくて、我が国全体の問題として捉えないといけないというのが、現在必死になって各所で取り組んでいる実態でございます。

実際にお子さんから出ているお声としては、進学したいけど経済的に諦めている。親が病気や失業で収入が少ない。親が働いていて、家に帰っても誰もいない。ちゃんとした食事は 1 日の中で給食しかない。頑張っても仕方がない。希望をなくしている。というような実態でございます。特に職においてはある事例では、お母さんが止む無く働くので、焼きそばを大量に作って、これ食べてね、と置いていく。それを朝昼晩翌日の朝と食べてる、と言うような事実もございます。

さらにはですね、この貧困と切り離せない問題が引きこもりでございます。いずれ社会的損失が約 43 兆円にのぼると、言われている事に関わるんですけれども。やはり貧困によってチャンスや機会・つながりを失うということは自信を持てないので、社会に出た時にどうしてもその荒波に乗っていけない、乗り越えていけないという事で、引きこもりに至るケースも多いと言われています。日本では、これはあくまで数字は推計でございますが、約 70 万人の引きこもりがいるんではないかという事で、内閣府が出しております。ひきこもりは幅広くて、貧困だけではなくて、経済的には裕福なんですが、ご家庭の問題によって引きこもっている事例もございますので、一概には直結とは言えないんですが、無縁ではない

というところが、こちらの実態からもあろうかと思います。

本日の最後になりますが、私たちにできる事、ということでございます。国や柏市での取り組みをちょっとご紹介させて頂きたいと思うんですが、平成24年の貧困率の数字を持って、国は何らかの対策をしなければならないということで、貧困対策に関する法律を施行させ、さらには27年の10月になりますが、子供の未来応援国民運動を本格始動しております。キャッチフレーズとしてのこちら「夢を貧困に潰させない」というこのキャラクターを含めて、非常に印象的で、ご覧なった方もいらっしゃるかと思うんですが、このような形で全国規模で動いているというのが、今の現状でございます。さらに柏市においては平成29年3月に、子どもの貧困対策推進計画を設けまして、関連各部署における貧困対策を実施しているところでございます。国はこのような形で貧困対策しようということで具体的に申し上げますと、教育・経済・生活支援・就労支援。この大きく四つの視点から各施策を打っていく、ということで動いております。特に柱は経済という所になりますが、やはり経済的な問題によって、教育を受ける機会が少ない。それから生活をサポートする、働くための生活をサポートであったり、さらには母子家庭になった途端、働き口というものを探さなければならないですが、そう言った就労支援も合わせてやっていくと、この4つが揃わないと解決には至らない、というところが実態でございます。

さらには、今ご紹介した制度外にもやはり必要性がありまして、制度では届きにくい支援というのがございます。10月に子ども食堂の話を聞くことでお伺いしておりますが、子ども・若者の居場所が今必要だということで、特に言われております。さらには地域の大人とのつながり、そして制度外の経済的支援。この三つが隙間を埋めるものとして、欠かせないのではないか、ということで、特に私共社会福祉協議会は、この三つに関して力を入れているところでございます。まず子どもと若者の居場所なんですけども、やはりこれは子供が孤立しないようにしていこう、そして安心していられる場を提供しよう、ということで地域の住民の皆さんが子ども食堂や学習支援と言ったように居場所を作っています。本日のお手元の資料にこちら、A3版の中面になりますが、これは市内で行われている食堂さんや、学習支援で実際の写真の様子でございます。来ているお子さんは、当然ながら貧困の状況のお子さんだけではないんですね。貧困の状況のお子さんだけにしてしまいますと、逆に貧困のお子さんが行きづらい環境になってしまう、ということで誰でも来ていいんだよという垣根を低くしながら、問題の抱えるお子さんに寄り添うと言うような活動を、市民の皆様が展開していただいているところでございます。実際にお子さんの声、保護者のお声も掲載してもらいますので、後ほどご覧いただければと思います。更にはこの地域の大人との繋がりでございます。残念ながら家庭環境に恵まれなかった。親がどうしても子供を愛しきれない、というご家庭であったとしても、地域に信頼できる大人、その子を見守ってくれる大人が一人いるかいないかどうかで、そのお子さんの将来が変わると言われています。地域で展開するこの居場所に、信頼できる大人がいられるように取り組みが必要とされております。さらには制度外の経済的支援です。緊急的にかゆいところに手が届く支援をどう展開できるか。制度では賄えない部分が、やはりこれだけ充実してもあります。この点を皆様のお力添えを頂きながら、展開していかなければならない重要な支援であると考えております。そこで私ども柏市社協は、このような形で柏こども未来基金というものを設立いたしまして、市民の皆様や、地元企業の皆様のご支援をいただいて、その基金を地域で子どもたちのために、居場所を提供している団体の皆さま活動費、そして制度外の経済的支援に使わせていただいております。特に長年既にやっておりますのは、ランドセルの給付でございますが、どうしても小学校に入る時に、一番お金がかかるのはランドセルでございまして、就学援助金があってもなかなかランドセルを揃えてしまうと、それだけでお金が飛んでしまうと、いうような状況もございまして、ランドセルの支給等を実施しております。更には、やはりお子さんの病気等で収入がガクッと下がってしまう、ここのケアをどうしていくかということで、貸付が現金支給によるサポートも行っているところでございます。

最後になりますが、今後に向けてというところでございます。ここで一つご紹介したい事がありまして、皆さんもご承知のことと思うんですが、年越し派遣村を先導した湯浅誠さんがいらっしゃるんですが、子どもの貧困対策にも熱心に取り組んでおりまして、その湯浅誠さんがあるコメントを発信しているんですね。そのコメントに乗せられている高校生の声がありまして、その貧困状況にある高校生の声を少しご紹介したいと思います。

「自分が早く自立できたらと何度もふさぎこんだ。手を差し伸べられると振り払ってしまう自分がいる。私はこんな自分を好きになれないでいる。塾に行くことを諦めなければいけませんでした。金額を見て諦めたりすることが多い、けれど誰にも話せない。誰もわかってくれない。こういうふうに考えてしまう自分が嫌いです。いつも一人でいる。学校でもひとりぼっちでいる。生きたいのかも分からない。自分のことがわからない。家族みんなが悲しい気持ちになる。何もそんな風に思わなくて

も、と思いますが、やはりこのような気持ちになってしまうお子さんが少なからずいる、という実態に向けて、見えにくい貧困という部分が制度が充実しても、それだけじゃ足りないところがございます。お子さんの状況を聞きますと、経済的なものが解決されれば解決に至るか、という風に思うんですが、同時に心の貧困というものが表れていて、そこも大きな課題ではないかなと思われます。現在柏市内では子ども食堂・学習支援・若者支援の輪が広がっております。第３のお子さん、若者の居場所というのが大変重要であると思っております。安心できる地域の大人との接点を多く作ってまいりたいと思っております。柏の子供達の笑顔と、そして未来のために、子供達に直接届く支援を引き続き皆様と共に推進してまいりたいと考えております。本日は短い時間でございましたが、このような形で引き続きご協力を賜われたら大変ありがたいと思っております。どうもご清聴ありがと

笑顔に出会える旅力トマンズ・バンコク６日間

森市　直樹　会員

私が会長をする承認を受けてから、ネパール支援プロジェクトが始まり、第１回目のネパール訪門をし、古着と現地にて文房具セットを購入し、支援対象学校等を模索しながら２校の学校を廻りました（首相死去により目標より回れず）。そして、帰国後、ニャンズ・メモリアル・スクール（孤児院）に支援を決定しました。翌年には、サッカーボール・バトミントン・バレーボール等を送り、去年は、古着を送りました。柏西 RC 江口会員の呼び掛けで船橋市の古和釜幼稚園で、体操服を処分したいとのお話を頂き、ネパールの子供たちに使って貰いたく、私も手を挙げさせていただきました。一時は他の方に決まりましたが、園長先生の計らいにより私の元へ届きました。この機会を与えられ、渡航を決意し、マハルジャン（元奨学生）や、現地のビノド君・テズ君と連絡を取りながら、９月の訪問の運びになりました。飛行機で持って行ける量は１名 37 キロなので、個人の荷物を極力減らし、250 着の体操服を準備いたしました。柏西 RC の有志の方々からも、沢山の餞別を頂き、現地カトマンズで鉛筆 3,000 本とノート 1,000 冊の購入予約をし、現地へ向かいました。

当初は、マハルジャン氏も同行予定でしたが、９月６日の人事異動により同行が難しくなり、２名での訪問となりました。９月 21 日（金）から９月 26 日（水）の６日間の日程で活動をしてきました。沢山の荷物を持ち、羽田空港国際線ターミナルに着いて、チェックインカウンターで、荷物の重量オーバー 12 キロと指摘され金額を提示されました。荷物を減らし持っていくか協議していると上司の男性の方が来て、主旨を報告するとこちらへどうぞと別の場所へ移動し、特別配慮しますので半額にして頂きました。あっ、俺達は色んな形で支えて頂いているんだなと、同行者と感激いたしました。0:20 発の飛行機に乗り、一路バンコクへ向かい 5:25 に到着し 10:30 のカトマンズ行きまで。６時間のトランジットを有効に使うため、プライオリティーカードで、各国のファーストクラスラウンジの訪問です。ミラクルファーストラウンジ・オマーン航空・エールフランス＆オランダ航空で時間をつぶし、カトマンズに向かいました。

カトマンズに着くと入国審査・手荷物検査で１時間以上かかり、最後の荷物検査で箱の中身の体操服の利用方法について言われ、話が通じないので急逮迎えに来ている、ビノド君に来てもらい、課税金 15,000 円を払い、空港を出た時には 14 時を超えていました。ビノド君、テズ君の迎えの車に乗り込み、ニャンズメモリアルスクールまで、悪路を走行しながら１時間掛けて到着しました。相変わらずガソリンスタンドは混雑しており、道は首都とは思えないほど荒れていました。まるでマッサージ器に乗っているみたいでした。到着すると、子供達が待ち望んでいるかのように、車に集まって来ました。何人かは見覚えのある子もいて嬉しそうな顔をしていました。生徒と一緒に、荷物を降ろし、段ボールを並べ、校長室へ行き、学校の現状並びに体操服、鉛筆。ノートの経緯、意見交換報告をさせて頂き、子供達一人一人に、文房具を配布し、体操服を配り試着をさせ、ボロボロの青い体操服から緑の体操服の数が増えていく光景がとても素晴らしかったです。体操服を早く着たくて、待ち望む生徒が可愛らしく、笑顔がとても素敵でした。集合写真後、校内を校長先生と生徒と案内して頂き、給食室やトイレ等も拝見いたしました。前回よりも生徒数も増えており、校舎も増えていました。水の供給がないため、水は下の施設から毎日汲んできており、かなりの水を使うみたいですので、シャワーは、週に１度みたいです。井戸を 200m 掘って、250 万だそうです。現地では 10 倍くらいの価値ですので、当分は無理のようです。識字率向上のためにも、パソコンも数台欲しがっています。個人での支援では到底無理ですが、何人かの方が手を指し伸ばしてくれていますので、今後もこのような活動を継続して支援していきたいと思います。この度、RC 関係者の皆様方にも支援していただき、誠にありがたく思っています。感謝です（江口・榎本・金本・榊・嶋田・細田・水留・水野・飯合各会員）。

（写真は次ページに掲載）

幹事報告　　齋藤　敏文

① 10 月のロータリーレートは 1 ドル＝ 112 円

我孫子ＲＣ婚活パーティー（参加締切 10/20）

これからの例会予定

月日	曜日	例会	卓話者・他内容
10 月 12 日	金	休会	
10 月 17 日	水	合同	**12:00** 点鐘 情報研修会
10 月 19 日	金	通常	笠井広子様（NGO 未来のこどもネットワーク）
10 月 26 日	金	休会	
10 月 28 日	日	合同	9:30 点鐘 地区大会
11 月 2 日	金	通常	杉原正幸会員

寄付金達成率（９月末現在）　　１０月ＲＲ =112 円

	目標額	達成額	達成率	個人目標
Ｒ財団・基金	1,326,000	384,100	28.9%	$150
Ｒ財団・ポリオ	265,200	415,737	156.8%	$30
（内募金箱		62,717）		
米山記念奨学会	400,000	180,000	45.0%	10,000

出席報告

会員数	６８名
欠席者	１５名

江波戸、長田、金子、後藤、小林正直、小林直人、志村、杉原、杉山、鈴木一弘、住吉、寺田、細田、升谷、山田　　会員

出席率　77.94％

ゲスト

高橋史成（柏市社会福祉協議会・地域福祉課課長）　　様

次回の例会は 10 月 17 日 (水) 合同例会です。

クラブ会報委員／浅野　肇・住田　みゆき・竹澤　雅彦

卓話・会報の原稿は kwrc.photo@gmail.com までお送り下さい。

欠席報告は、水曜日の正午まで

※クレストホテル (営業課)04-7146-1122 まで

※ＬＩＮＥでの連絡も可能です、詳細は SAA まで

※直前の欠席は SAA 安田 (080-5680-5460) まで